

# 上越市でも福祉灯油が実現

## 高齢者世帯等に1世帯5千円を助成

### 予算要望で提案

ようやく上越市でも福祉灯油が実現することになりました。1月10日、

上越市が、高齢者世帯等を対象に1世帯あたり5000円を支給する「**原油価格高騰に伴う暖房用燃料代助成事業**」を実施すると発表しました。隣接の妙高市が県内トップを切っていち早く実施し、新潟県も全国に先がけて制度を創設するなど、県内各地で実施自治体が増える中、市民からも強く要望が出されていたものです。

日本共産党としても12月26日に木浦市長に提出した「**2008年度予算要望**」の中で提案し、実現を求めたものです。

### 高齢者・障害者が対象

助成対象世帯は、65歳以上のひとり暮らし又は高齢者のみの高齢者世帯が約7200、障害者世帯が1450、母子世帯などのひとり親世帯が750、生活保護世帯が600のあわせて1万世帯（施設入所者や重複を除く

と約9千世帯）です。

### 対象者には案内が

1月24日までに対象世帯に案内文書を発送し、1月28日から3月7日まで申請を受け付けます。その上で、2月末から3回に分けて指定口座に振り込まれます。口座のない世帯は、窓口払いになります。状況によっては直接届けることも検討するとしています。

市は、案内通知のほか、広報じょうえつ、町内会回覧、報道機関の報道等で周知するとともに、民生委員・児童委員、地域包括支援センター等の関係機関にも周知の協力を依頼するとしています。

新たな取り組みとして、案内通知の発送作業は、障害者の雇用確保の観点から、授産施設等に委託します。

実施に必要な経費は、約4700万円、2200万円ほどが特別交付税で補填され、ほぼ同額を財政調整基金から繰り入れます。

### 議員には退職金が

### ありません

「議員を辞めます」と表明してからの、いろいろな所で、「退職金、いっぱいもらって、悠々自適ですね」といわれます。その都度お話ししているのですが、**県知事や市町村長には退職金がありますが、県会議員や市町村議員には、退職金がありません。**誤解されているのですね。「自営業」の方と一緒にいるのです。

それで私は議員になった時から、わずかつですが自分自身で積み立ててきました。それが自分への「褒美」だと思っていますし、支えてくれた家族に少しでも「恩返し」ができればと思っています。

ちなみに議員年金ですが、掛け金はほとんど引上げられ、現在、月65000円でしたが、支給額はどんどん減額されて、予想支給額は一ヶ月約10万円です。12年前の2/3の水準になってしまいました。

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

## 市政レポート

2008年1月20日 No.171  
発行・杉本敏宏 事務所  
上越市東本町5丁目1番38号  
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832

15日、自治基本問題調査特別委員会が開かれ、「地域自治区の設置に関する今後の対応方針について」報告されました。

「基本的考え方」として

①13区の地域自治区は、合併特例法による設置から地方自治法による設置に切り替え、恒久的な制度とする。

②旧上越市の区域には、当面設置しない。

③市民への説明、議会との議論を行なって、速やかな設置をめざす。

またその理由として

①再度説明のための期間が必要。

②議員の見解や考え方が隔たりがある。

としています。

私はこれは、「妥当な判断だ」と思います。

上越市は、合併に伴って住民自

も大事なことです。

治を強化する観点から、13区に地域自治区を設置し、旧上越市の区域にも広げるとしていま

## 旧上越市地域への地域自治区の導入は、当面「延期に

### 15日の自治基本問題特別委で行政が表明

した。そして、2度にわたって市民への説明会を行なってきましたが、参加者が少なかつただけでなく、異論も出され、とても「理解を得た」状況ではありませんでした。旧上越市区域選出の議員からも、「時期尚早」との意見が出されていました。

2月の臨時議会に条例が提案され、可決されれば、4月の市議選にあわせて13区の地域協議会委員の選任投票が行なわれます。

旧上越市では、再度説明会が持たれ、議会との議論・協議がおこなわれることとなります。いずれにしても、市民の理解がもっと

## 岡山元妙高高原町長との対談

在来線を守る三市連絡会の大平事務局長から、「10日の午前に、日本共産党の山口典久さんと岡山元妙高高原町長との対談が行われるので、同席してほしい」との連絡があり、同席することになりました。

前日の夜から今朝にかけての雪もやみ、青空が広がる上天気になりました。それでも親雪が40cm近くも積もっていました。岡山元町長が経営する岡山館からは、赤倉観光ホテルが正面に見え、スキー場の喧騒が身近に聞こえてきます。「スキー日和だね。こんな日は缶ビールでも持って、スノーシューで歩き回るのがいいかな」などの声が出るほどの陽気です。

岡山氏を囲んで、山口典久氏、霜鳥栄之妙高市議、丸山政男氏、カメラマンの村上雲夫氏などで、主に新幹線と並行在来線の問題で懇談しました。私が印象に残ったのは、「**新幹線を誘致したが、並行在来線存続に責任を感じている**」という趣旨の岡山氏の話でした。第一線を退いてしまえば、自分が仕出かしたことに沈黙をする首長が多い中、こういう責任を口にする人は貴重だと思いました。

今、日本共産党は、元保守系の方々や経済界の方々とも、党派・主義主張を超えて、住民の暮らし福祉を守り・充実するための協力と共同を模索しています。今回の懇談もそうした取り組みの一つですが、これはもともとと広めていく必要があると思われました。

